

平成24年10月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

職人の生産技術に焦点をあてた特別展「職人のわざとカタ」

主任学芸員 服部 武

現在、当館では、特別展「職人のわざとカター商品の誕生ー」を開催しております。(11月18日まで)
この展示は「型」を使ったものづくりをキーワードに職人の生産技術に焦点をあてたものです。

日本の職人史研究の第一人者・遠藤元男は、「職人とは手工的生産だけで生計をたてているもので手工業者のことである。」と定義しています。職人は精緻な手工技術をもつ技術者であるとともに、独立した経営者でもあり、工芸作家のような一品生産の技術とは異なる均一な品質の商品を効率よく沢山生産するための生産技術をもっています。その技術のひとつに「型」を使ったものづくりがあります。

職人の使う型には業種や工程によって様々な形状や種類があります。例えば鋳物の鋳型や、木目込人形や赤物の型、あるいは和菓子の型などは、材料を型の中に入れて整形するため、完成品に対して凹形の形状をしています。これに対して武州ダルマや張子細工の型は、形に素材を押し当てて整形していくため、完成する製品と同じ形をしています。また、「型紙」と呼ばれる平面的な形の型も多くの業種で使われています。そして一口に型紙といっても、足袋作りのように布の裁断に使うものもあれば、藍染めの型付け染めのよう布地に模様をつけるためのものなど様々です。さらに業種によっては、製品の各部位の工作精度を確認するための基準とする定規のようなものも型と呼んでいます。

このような各種の型を使うことで、職人は生産工程の一部を効率化し、まだ機械や動力のない手工の時代にも生産量を増加させることを可能にしていきました。職人のものづくりが大きく発展したのは江戸時代で、個人経営規模の多様な職種の職人が現れたのと同時に、地域規模で各種の特産品が作られるようになり、工場制手工業的生産も行なわれるようになりました。幕末に来日し、開国を迫ったアメリカのパリー提督も、日本の職人の仕事ぶりに感心し、将来日本が西欧の工業技術を取りいれたら、工業国として強力な競争相手になるであろうと、自らの遠征記で述べています。

今回の展示は、当館の前身の一つである旧民俗文化センターをはじめ、これまでに当館が行ってきた県内の民俗工芸の調査・研究で収集した資料と情報が中心となっています。

多彩な「埼玉のものづくり」をお楽しみいただけましたら幸いです。

謹啓

此度は再度多額の御援助を賜り厚く御礼を申し上げます。

また、貴重な「プロモーションDVD」や「岩槻の散歩マップ」まで、ご惠贈いただき有難うございます。

早速DVDを拝見して、大変素晴らしい作品を製作されたと感心いたしました。

本市はこの度の巨大地震によって多くの史蹟や貴重な文化遺産等も流失してしまいました。貴会のように長年培われてきた郷土の歴史や文化を記録として映像等に残し、これを後世に伝える事がいかに大切なことであるかを改めて感じております。

私共の活動の拠点であった市立図書館が被災したことから、会員が集まる場所も無く、資料や機器もすべて失い不自由な日々を送りましたが、貴会を始めとして各方面からのご支援やご協力を頂き、本来の活動も漸くと軌道に乗りはじめ、更に新しい会員の加入もあり、再出発に向け会員一同前向き頑張っております。

近世の仙台湾の古文書の中でも、非常に難解な文書として知られる「吉田家文書」ですが、やはり魅力的な文書であることには変わりはなく、完結までには今後何年を要するか未だに見通しが立ち難いですが、皆様のご厚意に報いるためにも目的（全巻解説）達成まで会員一同全力で進むつもりでおります。

来筆ながら、今後も貴会の増々のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。早々

平成二十四年九月十四日

陸前高田古文書研究会 会長 萩原 一也

進伸

今私たちの会では色々な方々から、「被災直後からの市立図書館での活動の記録を残しては・・・」というお話をいただき、犠牲となられた図書館の職員や三人の会員のためにも、私たちが今度経験したソフトを面での活動が、目立たずともどれほど貴重なことであつたか（手前味噌ですが・・・）を記録・記憶として遺すため、僅かな予算の中で工夫して自費出版として冊子を編纂中です。

あの日、会員一人ひとりが何処でどのように被災して、今日まで生活してきたかも掲載できればと考えています。決して立派な出版物にはほど遠いものとは思いますが、完成しましたらお送りいたします。お部屋の片隅にでも置いて頂き、何かの時の参考になれば幸いです。

陸前高田古文書研究会 事務局 佐藤 美智子

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

副会長 中村 均 様

昨年3月11日の大震災により、3人の会員の方を失い、また、全巻解説に書き付けられた矢先の「吉田家文書」の解説版という会員の努力の結晶が流失してしまう最悪の事態が生じた「陸前高田市古文書研究会」さまに、前回に続き、友の会会員の方々のお心の積み重ねとして、10万円をお送りいたしました。上記は、そのお礼状です。

失礼ながら、そのままを採録させていただきました。友の会会員の皆さまの暖かいお気持ちにあらためて厚くお礼を申し上げます。

友の会トピックス

1.これからのイベントスケジュール <☆=申込み可能 その他のイベントは☆が出るまでお待ちください>

- ◎ ~11月18日(土) 博物館主催・特別展「職人のわざとカタ」～ものづくりの技術の一端をご紹介～
- ◎10月28日(日) 当会主催・見学会「奥武蔵・秋めぐり」 **若干空き席あり。至急お申込みを!**
お問合せ 090-6538-5935 金子 ☆
- ◎10月31日(水) 当会主催・ミニ講演会「職人のわざとカタ」 講師：服部 武・博物館主任学芸員
このニュース別項参照 会員限定・新イベント ☆
- ◎12月2日(日) 当会・博物館共催・講演会「C14による弥生時代の年代測定とその影響」
このニュース別項参照 ☆
- ◎12月8日(土) 博物館主催・歴史民俗講座「古墳から出土した勾玉について」
講師：中山浩彦・博物館主任学芸員 11月8日(木)から電話受付
048-645-8171=博物館 定員150名
- ◎12月 当会主催・見学会「東京の古墳を2日で見ると」 (詳細未定)
- ◎1月 当会・博物館共催・講演会「古代の人口について」 (詳細未定)
- ◎2月 当会主催・見学会「桐生・上毛方面」と「発掘現場見学会」ダブル開催

2.友の会の新しい活動について

- (1) ミニ講演会について 上記のとおり、10月に第1回開催。
- (2) クラブ活動について ○映像クラブがいよいよ発進。ご関心のある方はご参加ください。
10月13日(土)午前9時=川口駅東口キュポラビル前広場・雨天中止
<日光御成街道・川口、鳩ヶ谷。浦和大門、撮影のため>
連絡先 090-1990-4807 筑井

◎当会の、これからの様々なクラブ活動にご興味のある方、全員ご集合ください。10月31日のミニ講演会のあと、ご意見やご希望をお伺いするミーティングを開催します。
=お申込みなしで結構です=

3.お助けください、友の会の活動

まず、サポーターとしてのお助けをお待ちしています。ご質問などは、土日祝に博物館友の会受付へ。

C14(炭素 14・)による 弥生時代の年代測定と その影響

国立歴史民俗博物館では 20 年ほど前から、炭素 14・年代測定を行なってこられ、弥生時代の始まりが、今から 3 千年前であることを突き止め、従来の年代観に比べ約 500 年早く始まっていることを明らかにしました。その測定の方法、正確性、そしてその影響について、この測定にたずさわってこられた藤尾先生に表敬いたします。

あなたのアタマのなかの古代史のモノサシは、いま、作りなおすべき時に来ています！

講師 国立歴史民俗博物館教授 藤尾慎一郎先生

日時 平成 24 年 12 月 2 日(日)午後 1 時半～

場所 埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂(取手駅前・230-0003)

ご参加無料

ご参加のお申込みは、往復ハガキに住所・氏名・電話番号・イベント名・会員の場合は会員番号を明記し、

11 月 27 日(火)までに、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町 4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ、

定員 150 名になり次第、締め切らせていただきます。(裏面にも、ご住所・お名前をご記入ください)

主催 埼玉県立歴史と民俗の博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成24年11月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

み ほ と け 礼 賛

元 理 事 櫻 井 傳 次 郎 (大宮区)

本会の講演会、見学会の開催を通じて、会員みなさんに仏像への関心が非常に高いことが分かりました。

仏像には、それぞれにさまざまな美的・尊厳的魅力があって、鑑賞、あるいは尊像の前に立って、静かに思いを凝らし、声なき「みほとけ」との対話にひとときを過ごす人々もおられると思います。私は若年の頃、転職しようかと悩んでいた時、偶然、興福寺の阿修羅像と対面し、いわゆる「みほとけ」の言葉を感じとることができまして、以来四十年間職務を全うすることができました。その後、幾度か阿修羅像を訪ね、東京で行なわれた阿修羅展にも勿論、大行列の中で小一時間ほど待たされても拝観してまいりました。

3年前の2009年11月、本会主催の「越生・毛呂山地区の仏像見学会」で、私にとって一番の圧巻は、里山の段丘上に、地域の秘仏としてコンクリート建物に、鍵を掛けて格納され、ひっそりと安置されている如意輪観音像（越生町・如意）でした。像は1メートル余りの榿（かや）材、一本割彫造りで、観音像では珍しく半跏坐像です。同行の元館長・林先生からの詳細な説明の一端によりますと、像は体の前側と後側とに別けて彫刻しており、胎内には平安末期の応保二年（1162）と墨書があって、平安仏の特徴が明らかで、しかも冠に古様な表現があるとのことでした。

眉や眼、髪や口髭にも墨書が施され、唇の朱を差している素朴な丸顔のお顔でスマートな口付きの表情は、私には一見少年のように、いや女性かとも見られ、合掌いたしますと、「何でも叶えてやるよ」と静かにおっしゃっているように聞きとれました。

地区の名称「如意」と書き、「ねおい」と読むのも観音像の由縁からでしょう。むべなるかなー

地区の人たちも年に一度しか対面できないそうです。その節は特別に拝観をさせていただき、誠に感慨深い一日でありました。

わが国の仏像は、飛鳥時代から時代を追って各種各様の仏像が作られましたが、とりわけ国宝で有名な十一面観世音菩薩像といえば、近江向源寺と奈良多武峰麓の聖林寺の尊像であります。

幸い、向源寺の尊像は2006年11月の東京国立博物館で開催された「仏像」展で拝観させていただいておりました。そして、2007年9月、ようやく念願がかなって聖林寺を訪ねることができました。尊像はテレビや書物で幾度か見ておりましたが、堂の入口に差しかかるとオーラのようなものを感じ、一瞬身が固くなりました。注意書きにも気付かず、仕切りのガラス面に額を押し付けて、眼を凝らし、家内から注意されて、ようやく我に返りました。

尊像は台座の上にプロポーションの整った優美なお姿でお立ちになっており、近寄りたいたい尊厳がありますが、面相は麗しく、私が見上げる視線に、尊像は慈しみの言葉を下さっているように思えました。胸部は意外と豊富な肉付きで、手は長く、妖しげな指先は、慈しみを表現しているとのことですが、私は、狩野芳崖が描いた「悲母親音像」の母の愛を表現したという指先を思い出しました。

千百年を経た天平時代の数少ない木心乾漆像が、繊細な形のまま眩しく現存しているのは、「山辺の道」にある大神神社の神宮寺の秘仏になっていたからでしょう。

たまたま、幸いなことに、私たち以外には拝観者は誰もいなかったのも、かなり長時間拝観ができ、清々しい思いに浸ることができました。

誓いしが ようよう詣でし 老夫婦 さら健やかなれみほとけの声

友の会トピックス

1.今後のイベントスケジュール

- 11月28日(水) ミニ講演会「埼玉稲荷山古墳出現の歴史的背景」 *
- 講師：博物館学芸主幹 利根川章彦先生
- 12月2日(日) 講演会「C14による弥生時代の年代測定とその影響」 *
- 講師：国立歴史民俗博物館教授 藤尾慎一郎先生
- 12月8日(土) 博物館主催・歴史民俗講座「古墳から出土した勾玉について」
- 講師：博物館主任学芸員 中山浩彦先生
- 申込み 電話受付 048-645-8171＝博物館 定員 150名
- 12月16日(日) 友の会見学会「東京の古墳を2日で見ると」第1回 *
- 案内：宮川進
- 1月26日(土) 講演会「古代日本の人口について」
- 講師：上智大学大学院教授 鬼頭 宏先生
- 1月 友の会見学会「東京の古墳を2日で見ると」第2回
- 案内：宮川進
- 2月 友の会見学会「桐生・上毛方面」
- 2月 友の会見学会「発掘現場見学会」

<友の会イベントのご参加のお申込みは現在*印のものだけを行なっています>

2.友の会のクラブ活動

- 映像クラブ 当面の目的＝「日光御成道(川口宿～岩槻宿)をビデオで撮影」
現在会員4名 ビデオの腕前不問 みんなで試行錯誤で！
お問合せ 090-1990-4807 筑井(つくい)
- 日本の祭り研究クラブ 当面の目的＝日本全国の祭りの情報収集
二月1回程度の活動 座学・現地見学・小冊子作成
これから、皆さまのご意見、ご要望を聞きながら、方向性を決めてゆきます
お問合せ 0493-54-0401 元木(もとぎ)

○その他、古墳クラブ、発掘現場見学クラブ～などに立ち上げを検討中です。ご参加のお申込みなどは、おはがきで、友の会へ、お願いいたします。

3.友の会から、いつものお願い

- あなたも、友の会の活動にご参加ください。友の会では活動のお手伝いをしていただく方を2グループにわけ、隔月でお手伝いをお願いしております。お手伝いの内容は、土日祭における友の会の「受付」、友の会ニュースの発送などです。具体的なことにつきましては、土日祭に受付をしておりますメンバーにお問合せください。
- 決してムツカシイ仕事ではありません。みんなで、この「友の会」の仕事も分担してゆく～それが、ホントの「友の会」ではないでしょうか。
- ぜひ、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

埼玉稲荷山古墳 出現の歴史的背景

行田の埼玉古墳群は5世紀末に、国宝の鉄剣を出土した稲荷山古墳が初めて造られ、その後、約1世紀のうちに、次々とあの大古墳が造られたものです。どうい理由で、この行田の地に大古墳群が造られたのか〜何か、理由があったはずで、それは何なのか〜これは知っておくべき、大変なお話ではありませんか？

講師 博物館学芸主幹 利根川章彦氏

日時 平成24年11月28日(水) 午後1時半〜

場所 博物館講堂 ご参加無料

ご参加のお申込みは、通常ハガキに住所・氏名・電話番号・イベント名・会員番号を明記し、11月24日までに〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。

返信はいたしません。お申込みされればご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達はご参加いただけます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

東京の古墳を2日で回る (第1日)

世界に誇る近代都市・東京にも、たくさんの古墳があることをご存知でしたでしょうか？

まさか、銀座にとは申しませんが、上野公園のなかにも、ファッションの街・代官山にも、あの高級住宅地・田園調布にもあるのです。そう、あったのではなく、今もあるのです。あまり、知られたくない秘密の場所ですが、今回、それを、みんなで見て回りましょう。関東の古代を知るために！

実施日 平成24年12月16日(日)

集合 午前8時 JR大宮駅西口・大宮ソニックビル背面北側

コース 大宮＝北区・飛鳥山1号墳＝板橋区・小豆沢観音塚古墳＝板橋区・熊野神社古墳＝足立区・白旗塚古墳＝台東区・播鉢山古墳＝葛飾区・柴又八幡神社古墳＝港区・芝丸山古墳＝渋谷区・猿樂塚古墳＝大宮

ご案内 宮川進 (「さいたま古墳めぐり」の著者)

参加費 6000円 (バス代・昼食代ほか)

ご参加お申込みは12月1日(土)必着。ハガキに住所・氏名・会員番号・電話番号を明記し、〒330-0841 さいたま市大宮区東町2-4 金子清敏へ。

会員限定ではありますが、ご家族、お友達のご参加可能。座席についてのご希望、集合地の地図をご希望の場合は、追記ください。バスの座席数の関係で、定員27名。定員を超えた場合は、締切日に抽選とし、お電話で結果をお知らせいたします。当日緊急連絡先090-4139-2740 宮川 (第2日目は1月実施予定)

平成24年12月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

師走を彩る羽子板市

主席学芸主幹 川上由美子

雛の箱物師として親しまれている浅草寺の羽子板市が、今年も12月17日（月）、18日（火）、19日（水）の三日間開かれます。

この市は、もともとお正月を迎えるための日用品やしめ飾りのほか、羽子板などを販売する縁の市でしたが、いつしか羽子板が主要商品になり、次第に羽子板市と呼ばれるようになりました。

ここで売られるのは、桐の木地に押絵を取り付けた押絵羽子板といわれるもので、江戸時代中期に江戸で誕生したものです。押絵とは様々な形の厚紙に絵を入れて布で包み、それを組み合わせる技法のことです。当初、押絵羽子板の題材は、松竹梅や鶴亀などの縁起物でしたが、やがて、当時江戸庶民の娯楽であった歌舞伎役者の羽子板絵を取り入れたことで、大いに人気を博し、押絵といえば羽子板を指すまでになりました。

羽子板市前日の深夜、浅草寺の境内で三寸と呼ばれる板絵の店が40軒ほど立ち並びます。そこには押絵羽子板の産地である春日部と所沢からも、「江戸橋」「まいするや」「宝屋」「一龍」春日（加）「やまどや金山」(所沢)の屋号で店がでます。

三寸の上部に、屋号を染め抜いた屋号が取り付けられ、その奥に一年間、職人さんが丹精込めて製作した押絵羽子板が数層なく飾られます。「舟燈」「蟹」「助六」などの歌舞伎狂言、あるいは「神娘」「夕景」「通成寺」などの歌舞伎舞踊など、歌舞伎ファンならずとも惚れ惚れするものばかりです。近年は歌舞伎を知らない世代が増えたこともあり、押絵にした番物の袖が羽子板木地の下方まで広がった、創作物の「番袖」と呼ばれるものも登場してきています。

それ以外にも、その年話題になった出来事や人物を題材にした「変わり羽子板」も目を引きます。これは商品ではなく、店の自立つ場所に着き、客寄せの役割を担うことから「看板」ともいわれるものです。今年の話題は東京スカイツリーでしょうか？

どんな結構の押絵羽子板が登場するか楽しみです。

また、春日部でも12月22日（土）、23日（日）、24日（月）の3日間、羽子板市が開催されます。会場は春日部駅東口の改札を出てすぐの広場で、浅草寺の羽子板市より小規模になりますが、店が並び職人さんが実演も披露してくれます。

会場には、3メートルもの大きさの押絵羽子板も展示されます。

師走の忙しい時期ですが、羽子板市に出かけ、江戸の文化に触れてみてはいかがでしょうか。

友の会トピックス

1.今後のイベントスケジュール <☆のみ、現在ご参加募集中。その他は募集公表までお待ちください>

- | | | |
|---------------|---|---|
| (1) 12月16日(日) | 見学会「東京の古墳を二日でめぐる」① | 締切済 |
| (2) 1月23日(水) | ミニ講演会「新編武蔵風土記稿の世界について」
講師：主任学芸員 渡 政和先生
～1月2日(水)から2月11日(月・祝)まで開催の同題の企画展にあ
わせ、展示物についての解説やウラ話などをお聞きします。 | ☆
会員限定イベント |
| (3) 1月26日(土) | 講演会「古代日本の人口」
講師：上智大学教授 鬼頭 宏先生 | ☆ |
| (4) 2月2日(土) | 見学会「東毛の歴史・民俗を再発見」 | ☆ 会員限定イベント |
| (5) 2月(詳細未定) | 見学会「遺跡発掘現場」 | 会員限定イベント |
| (6) 2月(詳細未定) | 見学会「東京の古墳を二日でめぐる」② | 会員限定イベント |

2.お正月グッズフェア開設

◎当会では、創立の年度から、博物館のミュージアムグッズフェア開催に際して、お手伝いをさせていただいてきました。

◎この12月から1月については、博物館の1月2日開館にともない、入場者数増加をはかるための「お正月グッズフェア」が開催されます。

◎今回も、そのフェアの開催を応援させていただくこととしました。博物館入場者数増加を応援させていただくためです。

つきましては、会員の皆さまも年末年始ご多忙中のところではございますが、ぜひ、お手伝いの一翼を担っていただきますよう、お願いを申上げる次第です。

◎要項は次のとおりです。

期間：12月27日(木)・28日(金)・1月2日(水)・3日(木)・4日(金)・5日(土)・6日(日)

開催時間：9時～4時半 体制：一日を午前の部・午後の部とし、各部3人体制とする

業務：県内生産の「鴻巣の赤もの」「岩槻の木目込み人形」「春日部の張子」などの縁起ものの販売

報酬：無償ボランティアとさせていただきます

ご参加お申込み：12月18日(火)までに下記へハガキによりお知らせください。

ハガキに、上記開催期間7日間の午前・午後の欄をお作りいただき、ご自分の参加可能な日、午前または午後の欄に○、不可能なところには×をご記入して、お送りください。調整して、ご参加いただきたいところをご連絡させていただきます。

なお、ご住所・お名前・お電話番号・FAX番号・メールアドレスをご記入ください。

あて先：〒337-0042 さいたま市見沼区南中野 1183-10 斉藤文孝

ご参加者説明会：12月26日(水)午後1時半～3時 博物館講座室にて

(説明会ご欠席でも、業務していただくことは十分可能です)

3.ご存知の郷土史研究会をお教えください

当会では、博物館の業務の伸展に活かそうとの目的で、県内各地の郷土史研究会との連携をはかるべく、その正式名称・連絡先(住所・電話など)を調べています。ご存知の研究会がございましたら、お手数ですが、当会までお知らせをお願いいたします。(その際、分かる限りの詳細をご記入いただければ幸いです)

あて先：〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町 4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会・郷土史研究会担当

＜埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会主催：日帰り見学会のご案内＞

「東毛の歴史・民俗を再発見！」

(イベント名)

(東毛とは～群馬県はかつて上毛野国(カミケヌイのクニ)と呼ばれ、その東の地域を云います。)

桐生の近代化遺産(織物)と戦国館遺風の彦部家住宅、
遥かな太古・岩宿遺跡など～東毛の時代を探る旅！

「桐生の織物」は、室町時代に京・西陣と並ぶと公家日記にもあり、特に明治時代以降を通じて、西の「富岡製糸場」と共に、産業近代化の役割を果たした。その織物工場群のノエザリ屋敷やレンガ倉庫群は、近代化遺産として保存され、織物・織機の産業技術は市内の群馬大学工学部等に伝わりますが、今回は織物参考館「紫・功り」を訪れ、その一端を知ることが出来ます。

桐生天満宮(国重文)は桐生城の総鎮守とされ、社殿の江戸期・建築装飾技術も一見に値すると云う。

郊外の渡良瀬川右岸にある彦部家住宅(国重文)は、中世の城館遺構を改し、戦国武士の時代を生き残る趣しき・理法しさを、奥光りの太柱から感じて頂きます。次に赤城連山を望む地・みどり市には、岩宿遺跡と岩宿博物館があり、わが国の考古学(旧石器時代)の礎を固めた先人の功績展示と発掘現場に触れて、太古のロマンを体感します。どうぞ、ご参加の上、お楽しみ下さい。

○ 実施日：平成25年2月2日(土) 出発・午前8時

○ 集合：ソニックビル西側(JR大宮駅西口から5分)

○ 参加費：6,000円 (バス・昼食・入館料等)

＜ 訪問コース ＞

バス・ソニックビル西側・出発：8:00 ～東北道(佐野停留所)～50号線～桐生市方面へ

○ 織物参考館「紫・功り」＝(食 事)＝○ 桐生天満宮(江戸期建築装飾物・国重文)＝

○ 岩宿遺跡・岩宿博物館 ＝ ○ 彦部家住宅(国重文)＝大宮到着：午後6時ごろ

＜ お申し込み ＞

往復バガキに、住所・氏名・電話番号(なるべく固定)・会員番号・参加イベント名を明記し、

平成25年1月22日(火)までに、〒331-0601 さいたま市北区今宿町477-12-12-404

橋本九二男へ、会員限定ですが、ご家族・お友達のご参加は連名のご記入で参加可。バスの乗降希望の場合も連名記入を。その他、お問い合わせ・緊急連絡先は、090-7729-1711(橋本まで)。

バスの定員数の関係で、定員49名 定員各超えた場合は、繰返りに抽選を行わせていただくこともあります。

古代日本の人口

講師 上智大学教授 鬼頭 宏先生

歴史人口学・日本経済史

日時 平成 25 年 1 月 26 日(土)

午後 1 時 30 分～3 時

場所 埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂

東武・野田線「大宮公園」駅・歩5分

この日本、古代にはどれぐらいの人たちが住んでいたのでしょうか？素人には、見当もつきません。そういうことに、見当をつけている専門家がおられるようだ～ということは、風のたよりで聞かないことはありませんが、何によって見当をつけておられるのかは、想像もできません。

今回、その専門家である鬼頭先生をお招きして、見当をつける材料をおうかがいし、また、その結果である「古代の日本の人口」について、お話を聞かせていただきます。

古代に、何人ぐらいのヒトが住んでいたのか～石や土で作った遺物を見るとときにも、そういうことを知っておけば、見る目も違ってくるはず。

そして、あなたの祖先も古代の人口の数の中に入っていたのです！

ご参加無料

ご参加ご希望の方は、往復ハガキにご住所・お名前・お電話番号・イベント名・友の会会員の場合は会員番号を明記し、1月21日(月)までに、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。定員150名になり次第、締め切らせていただきます。(裏面にも、ご住所・お名前をご記入ください)

埼玉県立歴史と民俗の博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成25年1月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆230-0803 さいたま市大宮区高島町4-218

「友の会」と「博物館」というものを考える

会長 宮川 進

私たちの博物館友の会は、平成18年4月に発足しました。それから7年経過し、会員数も500名に手がとどきそうになってきました。

埼玉県における博物館統合をもたらした「県立博物館施設再編整備計画」のなかにも「博物館友の会」についての言及もあったと記憶していますが、もとはといえば、博物館からの発案で、博物館のユーザーを組織化しておくことが、博物館経営にプラスとなるであろうという意図により作られたものであります。

そして、当会の生みの親ともいべき高橋一夫館長（当時）の「メドとして、500名を超える組織を～」という言葉を、ようやく達成することになったのです。

「友の会」といえば、百貨店の「友の会」が有名ですが、これは百貨店が自らの顧客を囲い込んでおきたいという意図から作ったもので、当然、デパートの経費と人員によって運営されています。そして、「博物館友の会」も日本においては、「百貨店友の会」のようなもので、博物館の経費と人員によって運営されているものがほとんどです。ところが、私たちの友の会は、作られた時期が、県の予算としては「経費もヒト」も出せないというときでしたから、全く、そういうものが期待できない組織であり、期待できるのは仲間の自主と同司の支持と博物館の方々のやさしい「無償」でしかなかったのです。

そのメドが立った「いま」ですが、昨年の11月に、また心配な記事が新聞に掲載されました。2011年度の県立美術館・博物館6施設の入館者数が合計で70万人の大台を割ったというものです。

歴史と民俗の博物館の数字は、10月からの円空展の開催などもあって、13万3千人と結構なものではありましたが、怖いのは、博物館の実績は、こういう数字で評価されるということです。

「博物館の収損益」を自認している私たちです。決してグラウンドでプレイして決勝点をゲットできるわけではありません。しかし、収損益にもできることはないか？

そこで、採算と興見による、ひとつの提案。特に、私たちの場合は、自らがリピーターとして、どのように入館回数を増やすか～ということを考えてみたいと思います。

もう全部見たとおもっている常設展示のなかに、面白いモノを探して、見直してみよう～という提案です。ヒトの行動心理を考えてみましょう。ヒトは「面白さ」「感動、感激」を求めています。それらが与えられるところなら、ヒトたちはどこへでも行くでしょう。

実は、博物館はそういうもので溢れているのです。博物館はあまり、それを売り物にはしていませんが、博物館の数多い展示ケースを、埋もれた「面白さ、感動、感激」を求めて、じっくり見直してみましょ。

ゆっくり、時間をかけて、すこしずつ、「何回も」も、～その「何回も」というのがミソなのですが～教科書、勉強しろよ、と与えられるもの。授業以外で、教科書は読みたくないもの。しかし、私たちは「教科書」のなかに「面白さ、感動、感激」を見つけた経験は多いのではありませんか。博物館は、まあ言うなら、「教科書」。博物館も、教科書と同じく「面白さ、感動、感激」が前面に出てはいません。しかし、ふーん。へーえ。あれあれ。これが？ エッ！～そういうものが教科書以上に、きっとあるはず。

教科書のなかに感動を見つけた経験をふたたび味わうことができるのが博物館なのです。

そして、みんなが、こういう見方をしてくれば、それは博物館の入館者数を2倍、3倍にすることにつながるのではないのでしょうか。

友の会トピックス

1. これからのイベント予定（「○博物館主催のもの」を含む）

- ◎1月23日（水） 会員対象講演会「新編武蔵風土記稿の世界について」 1時半～ 当館講堂 ☆
講師：主任学芸員 渡 政和先生
- ◎1月26日（土） 講演会「古代日本の人口」 1時半～ 当館講堂 ☆
講師：上智大学大学院教授 鬼頭 宏先生
- ◎2月2日（土） 見学会「東毛の歴史・民俗を再発見」 8時 ソニックビル西側集合☆
参加費 6000円（バス代・昼食など） =空き席若干・至急お申込み必要=
- ◎2月下旬（未定） 見学会「遺跡発掘現場」
- 3月16日（土） 歴史民俗講座「埼玉の絵馬」 1時半～ 当館講堂
講師：学芸主幹 大久根 茂先生 =1ヶ月前から電話（048-645-8171）受付
- 3月16日（土）～5月6日（月・祝） 特別展「発掘された木の道具」
- ◎3月17日（日） 見学会「東京の古墳を2日でめぐる」第2日 8時 ソニックビル西側集合
- 3月17日（日） ミュージアムトーク「古墳」 1時半～2時
=先着順 30名 事前申込み不要

☆印は、現在、応募可能のものです。 無印は、まだお扱いしておりません。

- ### 2. この号から、会費の振替用紙を同封させていただきます。次年度のご更新を、よろしくごお願い申し上げます。
- お友達などへのご入会のお誘いを、お願いいたします。新入会で、3月末までにお申込みいただきますと、会費は25年4月からの分に充当させていただきますので、オトクです。

3. ご存知の郷土史研究会をお教えてください

前号でもお願いいたしましたが、お近くの郷土史研究会についての情報を求めています。その正式名称・連絡先（住所・電話など）をお教えてください。

博物館の業務の伸展のために、県内の郷土史研究会とのネットワークを構築させていただきたいと考えています。

ご連絡は友の会の「郷土史研究会担当」へ。

4. 友の会のサポーター、常時、募集中です

友の会には常駐する事務担当者はありません。土日祭に、博物館で受付をしていただける方が大切なのです。ぜひ、お助けいただきたく、ご願いを申し上げます。ムツカシイお仕事ではありません。やってみようかな～とお考えでしたら、土日祭に、博物館の当会受付をお訪ねください。何をさせていただくかについて、ご説明をさせていただきます。無償ボランティアであることをお含みください。

5. お正月グッズフェア、無事終了

12月27日～1月6日まで、博物館の新年開館を盛り上げるために、グッズフェアのお手伝いをいたしました。

会員の方に、積極的にご協力もいただき、無事終了することができました。今年の干支が「蛇」であったため、売り上げ増加には苦しみました。（可愛いへびちゃんだったので）

でも、会として、みんなで仕事をするのは楽しいことです。これからもご協力をお願いいたします。

友の会・平成 25 年の活動もご期待ください！

理事・サポーター会議で決定した、おおよその25年度計画は次のとおりです。今後、博物館の年度計画とすり合わせのうえ、正式には5月の友の会総会で決定いたします。メヤスとしてごらんください。

◎講演会（このうち、6件程度を選んで実施する。実施月は未定）

- 〇ここまでわかった群馬台国
- 〇天 皇 陵 に つ い て
- 〇世 襲 の 考 古 学
- 〇浮世絵の元祖・岩佐文兵衛
- 〇明治に活躍した女性 新島八重 津田 梅
- 〇さいたまの津・古代の地形
- 〇X線分析による考古学
- 〇イギリス人学者が見た明治維新

◎見学会（このうち、6件程度を選んで実施する。実施月は未定）

- 〇多賀城（一泊）
- 〇碓氷峠・成本宿
- 〇栗橋・古河
- 〇鉢形城・川の博物館
- 〇北関東の縄文遺跡
- 〇平将門の史跡
- 〇沼澤県歴史館（水戸方面）

◎会員限定講演会

友の会会員限定で、博物館の学芸担当者から、ご専門分野についてのお話を、ジックリ、おうかがいする講演会です。これまでの「ミニ講演会」の延長として、当年度も実施の予定です。

◎友の会・クラブ活動

同好の士が集まって行なう、自主的活動です。いま、映像クラブが生まれ、今後もクラブが続々と名乗りをあげていただき、会員の乃々が楽しみながら活動していただくことが期待されます。

◎その他

- 〇サポーターさんの陣容拡大をはかる
- 〇博物館と県内各地の郷土史研究会とのネットワークの構築を検討する
- 〇会員が博物館の積極的なリピーターとなる仕組みについて検討する

博物館の「平成 24 年度要覧」から～

☆平成 23 年度の有料観覧者数では～

友の会は754名、これは学生（個人、高校生以上）の783名とほぼ同数、有料観覧者数全体18,752名に対し4.0%にあたります。〈高齢者扱い＝無料＝で観覧された方をのぞく数です〉

☆円空展のあった10月は～

友の会の観覧者数は207名で、有料観覧者数全体2,545名に対し、8.1%でした。〈高齢者扱い＝無料＝で観覧された方をのぞく数です〉

☆ちなみに～

平成 23 年度の入場者総計は133,160名、当初予算は100百万円（予算額高明は平成3年で230百万円）

あなたの仲間入りを待つ友の会クラブ活動のご紹介

1. 映像クラブ お問い合わせ先：090-1990-4807 真井（つくい）さん

- ☆当面の活動 日光御成道の川口宿から岩間宿までの紹介ビデオを、みんなで作ること
- ☆現在の会員数 男女あわせて6名 ビデオ撮影の経験不問・機材不問
- ☆みんなでフイフイガヤガヤ、試行錯誤しながら、ビデオ作品を作り上げたいと思っています
みんなで一緒に歩きたいだけ～という方もご参加、歓迎です

2. 日本の祭り研究クラブ お問い合わせ先：0493-54-0401 元木（もとぎ）さん

- ☆当面の活動 一度、ご入会をお考えの方々にお願いいたします、皆さんのご希望で活動の方向を決めたい、研究とはいいながら、実際に祭内を中心に、あちこちのお祭りを見ることを中心にしたい
- ☆活動のイメージ 土日に、みんなでお祭りを現に行く、近くの史跡をめぐると
具体的には、こんなイベントを考えています
 - ・4月14日（日） 晩春・北条まつりの見学
～戦国時代、北条軍と豊臣軍との攻防戦の再現
 - ・7月20日（土）または21日（日） 秩父川団扇の見学
～秩父神社の夏期例大祭、神輿曳きの儀式が任せ
 - ・8月 3日（土） 晩夏玉淀水天宮まつりの見学
～玉淀河原にぼんぼりや提灯で飾られた舟山車と対岸の花火との競演
 - ・11月3日（日） 毛呂山阿比留伊波比神社・筑城馬の見学
～源頼朝・義家が奥州平定凱歌の途中で奉納したのが起源
- ☆ご興味のある方は、上記にご連絡ください、活動の方向を決める準備会の日程をご連絡させていただきます。

3. 街道を歩く会 お問い合わせ先：048-756-5634 犬走（いぬばしり）さん

- ☆当面の活動 鎌倉古道と呼ばれる道を、みんなで歩きたい、ご興味のある方々に一度、お集まりいただき、どこを歩くのか、皆さんとお話し合いをしたい、上記にぜひ、ご連絡ください、準備会の日程をご連絡させていただきます。
- ☆月1回くらい、土日に出かけたいと思っています

4. 地上に芽を出すか、運命をにぎっているのは「あなた」

この他にも、古塔をめぐると、古墳をめぐると、遺跡発掘現場を見学する会、神社めぐりをする会などが、入会してくれる方がいるかなあ？ という様子見をしています。これらのクラブにご興味をお持ちの方、その他、こんなクラブを立ち上げたいという方は、博物館友の会・クラブ活動担当へ、お集まりでご連絡くださるよう、お願いいたします。

平成25年2月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区廣島町4-218

古墳踏査記～墳丘長100m以上の古墳の完全踏査をめざして～

友の会会員 佐藤 幸一郎 (吉川市)

昭和42年の夏、初めて「古墳」の発掘を体験した。踏査対象は茨城県稲敷郡布川村浮橋(現在の稲敷市)に所在する和田藤木古墳群である。この発掘は現在、陸続きであるが、かつては霞ヶ浦に浮かぶ孤島であった。奈良時代に編纂された「常陸風土記」にも書かれている有名な島で「住んでいる人たちは塩を焼くことを業としている。島には九つの神社があって、人々の言行は情み深いものがある。」と書かれている。(当時、島内の「草野神社」周辺地で製塩土器や有孔円板、紡錘車等の祭祀土器も発掘している)。この古墳群の発掘体験から「古墳」に対する興味を持ち続け、そのまま今に至っている。

とはいっても「学究」的なものではなく、全国に所在する、主に墳丘長100m以上の古墳や遺跡等を地図片手に、南は鹿児島県志布志海岸の船山古墳(海城)から、北は岩手県角塚古墳(東北の前方後円墳)まで、また、宮内庁管理の御陵や参拝地等は「制式屋形」周辺や外周などを巡ることで現状「踏査したもの」と見なし、墳丘まで登ることが出来る古墳は、古墳特有の墳丘土壌の感覚を確定で踏みしめながら、ひたすら雑木等をかき分けて墳頂等を目指す。そして、前方部や後円部、くびれ部にたどり着き、そこから何が昇ったのか、どのような立地環境なのか、など墳丘上で、他愛のない思いに浸る。その心地よさがたまらない。

全国には墳丘長100m以上の古墳が301基(注)、うち管内(三重県を含む)には157基(52.2%)の古墳が存在する。

このうち、24年11月末現在、踏査した古墳は191基、踏査率は63.5%である。

更に、全国の古墳を墳丘規模別で見ると、

- 墳丘長150m以上の古墳 71基中、踏査古墳 68基(踏査率95.8%)
- 墳丘長130m以上の古墳 113基中、踏査古墳 102基(踏査率90.3%)
- 墳丘長120m以上の古墳 153基中、踏査古墳 121基(踏査率79.1%)
- 墳丘長110m以上の古墳 216基中、踏査古墳 154基(踏査率71.3%) ~である。

ちなみに、未だ巡り会えない古墳(未踏査古墳)は全国に110基が存在し、その範囲は2府22県に及ぶ。それを地域別で見ると、

- 九州 17基 ○中国 2基 ○四国 2基 ○近畿 54基 ○中部 1基
- 北陸 3基 ○関東 29基 ○東北 2基 ~である。

「ライフワーク」として、「古墳踏査」という「目標」があり、楽しい希望が持てる反面、まだまだ先があると思うと、なかなか大変である。

一昨年3月、定年退職し、現在、セカンドステージを進行中だが、介護という期間にも遭遇し、難点は専らインターネット等を活用するなどして、未踏査古墳への交通アクセスや、当該古墳に関する発掘資料等の収集などに努めている。いつの日か「対象古墳の完全踏査日」を目指して……

(注) 全国における墳丘長100m以上の古墳数については、先学諸氏により様々な見解や集積が示されているが確定したものはない。特に、最近の新たな発掘調査の結果、墳丘長が100m以上であると認められた古墳がある一方で、「塚」として伝承されてきたが「古墳」ではなく、自然の盛りまりであると判明したものがあるなど、古墳数は一定していないのが現状である。

東京の古墳を2日で回る(第2日)

世界に誇る近代都市・東京にも、たくさんの古墳があることをご存知でしたでしょうか？

第1回に続き、高級住宅地・田園調布から始まり、世田谷区等々力から野毛へ、多摩川の左岸に並ぶ古墳の連なりと都区内のイチバン西の果て、喜多見あたりまでを見て回りましょう。関東の古代を知るために！

実施日 平成25年3月17日(日)

集合 午前8時 JR大宮駅西口・大宮ソニックビル南口側

コース 大宮＝大田区・浅間神社古墳・龜甲山古墳・宝来山古墳＝世田谷区・浅間山古墳・御岳山古墳・等々力溪谷3号墳・野毛大塚古墳・站中学校4号墳・稲荷塚古墳・第六天古墳・慶元寺古墳＝大宮

ご案内 宮川進(「さいたま古墳めぐり」の著者)

参加費 6000円(バス代・昼食代ほか)

ご参加お申込みは3月8日(金)必着。ハガキに住所・氏名・会員番号・電話番号を明記し、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町2-212 岩井隆興へ。会員限定ではありますが、ご家族、お友達のご参加可能。座席についてのご希望、集合地の地図をご希望の場合は、追記ください。バスの座席数の関係で、定員27名。定員を超えた場合は、締切日に抽選とし、お電話で結果をお知らせいたします。当日緊急連絡先090-4139-2740 宮川

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

早春の古代遺跡ウォーク

会員の皆さまに、友の会ならではのイベントとして、よろこんでいただいています。<遺跡発掘現場の見学会>。昨年からは2月下旬に開催させていただいております。

古代ロマンに、どっぷり浸ることのできるチャンスをお活かしく下さい。今回は上尾道路建設事業に先立ち行なわれる「上尾市・中井遺跡」の現場見学会です。縄文時代中期（約4,500年前）の大環状集落が発見されています。

◎日 時 平成25年2月26日（火） 雨天中止

午前10時～12時 お弁当のご持参は原則不要

◎集 合 上尾駅改札前 午前9時15分

◎コース 上尾駅西口～（東武バス・約15分）
～西上尾車庫～（徒歩15分）～
中井遺跡 <見学>

◎費 用 無料（バス代片道210円必要）

◎ご説明 埼玉県埋蔵文化財調査事業団の職員

○ご参加お申込み ハガキに住所・氏名・電話番号・会員番号
・イベント名を記入し、2月22日（金）
までに〒330-0803 さいたま市大宮区高
鼻町2-212 岩井隆興へ、会員限定ですが
ご家族・お友達もご参加可。ご返事はいたし
ませんが、お申込みいただいた方はご参加い
ただけます。
当日・緊急のご連絡は 090-7170-3294 岩井

ラオスの博物館と埼玉県

副館長 井上尚明

このテーマを見て、「どのような関係があるの?」と、疑問を持つ方は多いのではないかと思います。ところが少なからず縁があるのです。

昨年10月に、ラオス北部の街ルアンパバーンを訪れました。1995年に世界文化遺産に登録された、メコン川と支流のカーン川に挟まれた静かで小さな街です。三様の名前が付けられたメインストリート沿いには、王宮を中心に寺院が建ち並び、朝早くには托鉢僧の列を見ることができ、夜になると両辺の少数民族が集まりナイトマーケットが開かれます。

ラオスは1975年までは国王がいて、ルアンパバーンの王宮に往んでいました。この王宮が現在は国立博物館となり、王宮コレクション等を展示しています。2001年と2003年に、ラオス国立ルアンパバーン王宮博物館の学芸員が、展示や資料管理と博物館運営を学ぶため、当時の埼玉県立博物館でそれぞれ半年間の研修をしています。2001年に来日したバンベンさんは、中国の武漢大学で考古学を専攻し、ラオス語の他に英語・タイ語・中国語が話せ、半年後には日本語もかなり上手になっていました。2003年に来たトンクンさんも、英語教師から学芸員になった才女で、日本では職員と一緒に普及活動も熱心に行っていました。

バンベンさんは帰国後、30代で国立博物館の館長になり、現在は政府の高官になっています。トンクンさんはルアンパバーン市内にある民族学センター(Traditional Arts & Ethnology Center)の設立に携わり、現在もこのセンターに勤務しています。今回、私は連絡もしないで突然行ったため、彼女達は不在で会うことができませんでしたが、バンベンさんとは夜になって電話連絡がとれ、カーン川沿いの食堂でビール(ビア・ラオ)を飲みながら近況を聞くことができました。トンクンさんはベトナムに出張中でしたが、センターの学芸員達と名刺交換し、少数民族を中心にした資料を見ることができました。

当館で研修した2人が世界遺産の街で活躍し、埼玉で学んだ技術や知識が国立博物館や民族学センターの展示に活かされていると思うと、感慨深いものがあります。また、館の運営や資料管理など見えない部分でも、県博での経験が活用されていることでしょう。

彼女達の他に、事業団で発掘の手伝いをしていた埼玉県日高市出身の川島君は、JICAから王宮博物館へ派遣されていたこともあり、現在は首都ピエンチャンで文化財関係の役所にいるとのことでした。

以上のように、ラオスと埼玉は博物館を通じて意外な関係があるのです。

ルアンパバーンに行くにはいくつかルートがありますが(直行便はありません)、ハノイでのトランジットさえ我慢すれば、午前中に成田を発つとその日のうちに遅い夕食(カオソーイがおすすめ)をルアンパバーンでとることができます。メコン川沿岸には、土器づくりのムラ・織物のムラ・漆づくりのムラなどが点在していますが、ラオスには鉄道がなく橋も少ないため、交通手段は船が中心になります。もうすぐ雨季に入りますが、メコンの清流を眺めながらの船旅はいかがでしょう。

鎌倉街道を考える会のイベント

春爛漫の鎌倉街道・中道を歩く

(尾ヶ崎より岩槻まで)

実施日	平成25年4月14日(日)
集合	午前9:00東武野田線岩槻駅北口前
コース	①將軍寺(旧岩槻街道＝鎌倉街道中道を歩く道標あり) ②尾ヶ崎八幡神社(源氏の八幡信仰) ③狭間八幡社(川口以北で、最初の源氏武將伝説地、「古式子供土御入り」は国指定重要無形文化財) ④美福寺貝塚(国指定史跡) ⑤富士塚岡神社(新編城の守り神) ⑥岩槻城跡 ⑦その他 ⑧岩槻駅(解散は、10:00予定)
ご案内	大倉 真蓮
参加費	200円(資料代、調査費等)は、当日持参願います。
昼食	岩槻市民会館内の太平門(ここの名物は「豆腐ラーメン」500円です。)
その他	往復のバス代金200円は、費人支払願います。 (新編駅821発の目白大塚由浦和奥羽駅行)

- ・参加申込みは4月2日(火)必着。ハガキに住所・氏名・会員No・TELを明記の上、〒219-0008 さいたま市岩槻区本丸3-17 大倉真蓮へ
- ・会員登録ですが、ご家族・お友達も参加可。お問い合わせは、049-738-5834 大倉まで
- ・保険は料に入りませんので、各人よろしく願います。
- ・歩く距離は凡そ7キロメートル(道は6キロメートル＋支路1キロメートル)ですので歩き慣い身なりをお願いします。

友の会からのお詫ひ

2月10日付けの「JUNO」第77号に同封させていただきました平成25年度の会員証につきましては、その有効期限を「平成25年3月末日」と誤って記載いたしました。ご心配、ご迷惑をおかけいたしました。申し訳なく、心からお詫ひ申し上げます。お詫ひのほど、よろしくお願ひ申し上げます。

該当の皆様につきましては、この第78号に、平成25年度会員証を同封させていただきました。先にお送りいたしました分につきましては、お手数ながら、ご廃棄いただきますよう、お願ひ申し上げます。

友の会トピックス

◎これからのイベント

- 4月28日(日) 友の会・博物館共催歴史講演会 「年輪年代学が古代史を変える」 ☆
講師：原文研・光谷拓実氏
- 5月26日(日) 友の会・博物館共催歴史講演会 「口部天皇陵と百舌鳥古墳群の謎」
講師：ジャーナリスト(元読売新聞文化部)・矢澤高太郎氏

☆印のみ、現在申込み受付中。☆印のないものは、お申込みをお待ちください。

2013年

埼玉県立歴史と民族の博物館友の会
「日本の祭り研究クラブ」

第1回 お祭り見学会のお知らせ(参加自由)

〈祭り及び
見学箇所〉行田市郷土博物館～市内見学～埼玉古墳群
さきたま史跡の博物館～さきたま火祭り

〈期日〉

5月 4日(土) 雨天決行

〈集合〉

さきたま古墳公園はにわの館横
レストハウス13時00分若しくは16時00分

〈費用〉

★博物館入園料等(入館希望者)

〈持物等〉

★歩きやすい靴及び服装・帽子・飲物・カメラ等

★行程及び祭りの概略

- 「さきたま火祭り」は、ミノハナサケヤヒメが産屋に火を放って、海幸彦と山幸彦を護んだ神話を元にした、古代ロマンあふれる「火」の祭りです。
昭和60年(1985年)から始まった「さきたま火祭り」は「鉄刺マラソン」とともに、埼玉古墳群で行われる大きなイベントで、実行委員会や商工会議所など、地元が中心になって行なっているものである。
当初から博物館は会場としての公園を提供するだけで、多く関わっていない。最近、開催時間延長などの対応をしている。
- 最近の行田市は、遙かなる古代の息吹を感じる壮大な古墳群を始め、影城を舞台にした映画「のぼりの城」、古代のハス、ご当地グルメのフライ&ゼリーフライなど非常に元気な街です。

連絡先：元木 孝 TEL：0493-54-0401

(携帯090-2259-1673)

★次回予定 5月12日(日) 寄居北條祭り：(寄居市)

年輪年代学が 古代史を変える

年輪年代学というと奈良文化財研究所の光谷拓実先生。その光谷先生を大宮にお招きしてお話をお伺いします。

「年輪年代学」の方法とは？ それは古代の歴史を、どのように変えたか？
例えば、「邪馬台国」については、その解釈に、どのように関わるのか？
そういうお話を、直接におうかがいできる、得がたいチャンスです！

講師

独立行政法人国立文化財機構・奈良文化財研究所

光谷拓実先生

日時

平成25年4月28日（日）
午後1時半～3時

場所

埼玉県立歴史と民俗の博物館
講堂 <東武野田線・大宮公園駅下車5分>

◎ご参加のお申込みは、往復ハガキに住所・氏名・電話番号

・会員の方は会員番号・イベント名・(返信面にご自分のあ

て先を)を明記、4月23日(火)必着で〒330-0803さいたま

市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

へ。定員(150)を超えた場合は、お断りすることがあります。

埼玉県立歴史と民俗に博物館友の会